

横浜市 風しん流行情報 19号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

《トピックス》

市内にて患者報告が続いています。

- ◇ 2018年第30週(7月23日～29日)から、全国で風しんの報告数が急増しています。
- ◇ 全国では感染者の94%が成人で、男性が女性の3.8倍多く、男性は30～40歳代、女性は20～30歳代が多く、予防接種歴なし、あるいは不明が92%を占めています。*1
- ◇ 市内では、第34週(8月20日～26日)から4月10日までに **240人**の報告がありました。
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風しんにかかると、眼や心臓、耳等に障害のある「**先天性風しん症候群**」の子どもが出生することがあります。
- ◇ **妊婦さんの周りにいる方(パートナー、子ども、その他の同居家族等)**は、風しんを発症しないよう予防が必要です。**予防にはワクチン接種が有効です。**
- ◇ 市では、「**妊娠を希望している女性**」、「**妊娠を希望している女性のパートナー**」、「**妊婦のパートナー**」を対象に、「横浜市風しん対策事業」として風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。*2
- ◇ 風しんの主な症状は、**発熱や発疹、リンパ節の腫れ**などで、発疹の出る前後1週間は感染性があります。
- ◇ 風しんを疑う症状が現れたら、必ず事前に医療機関に電話連絡をして相談の上、医療機関の指示に従って受診しましょう。受診時は周囲への感染を防ぐため、マスクを着用し、公共交通機関の利用は避けましょう。

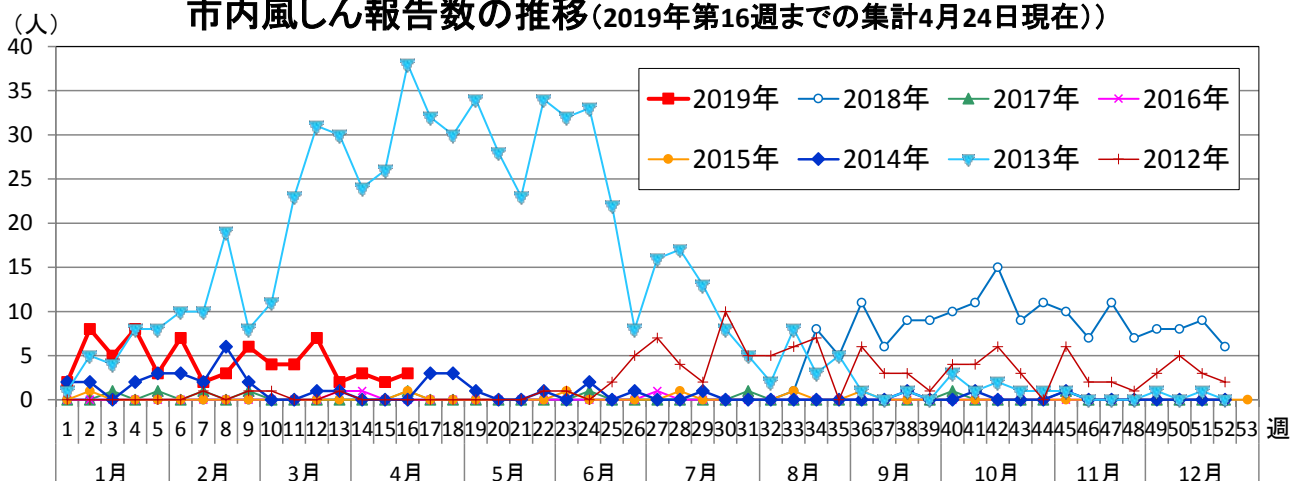
*1 [風疹流行に関する緊急情報:2019年4月17日現在\(国立感染症研究所\)](#)

*2 [横浜市風しん対策事業\(横浜市保健所\)](#)

(参考) [風しんについて\(厚生労働省\)](#)

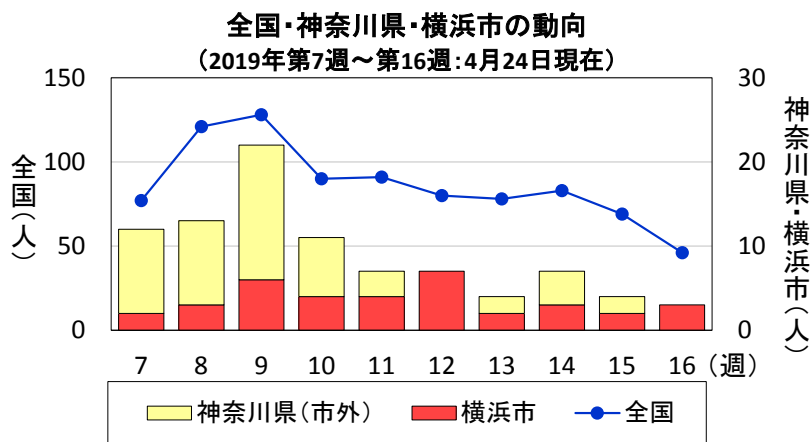
- 1 **市内流行状況:**2018年は7月まで市内での報告はありませんでしたが、第33週(8月13日～19日)に1人が診断され、2019年4月10日までに240人の報告がありました(4月24日現在)。1週間あたりの報告数の推移が例年と比較して多い状況が続いており、今後の推移に十分な注意が必要です。

市内風しん報告数の推移(2019年第16週までの集計4月24日現在)

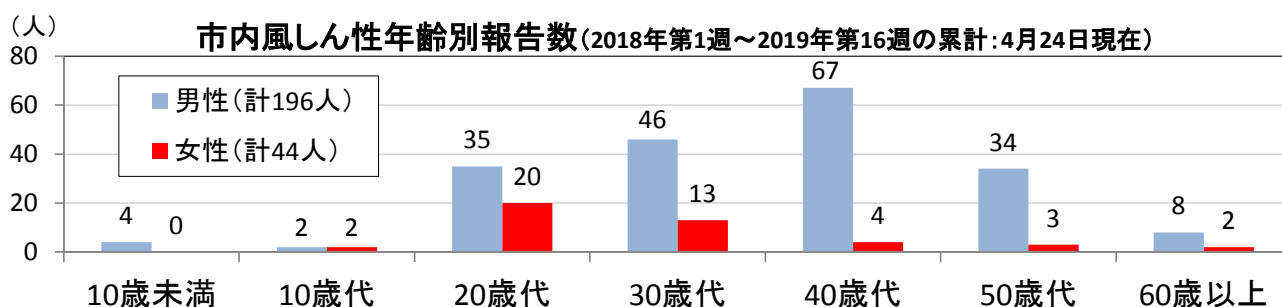


神奈川県内でも第31週(7月30日～8月5日)から報告が続いています。人口あたりの患者報告数は、東京都、佐賀県、千葉県、神奈川県、福井県、福岡県の順に多く報告されています。

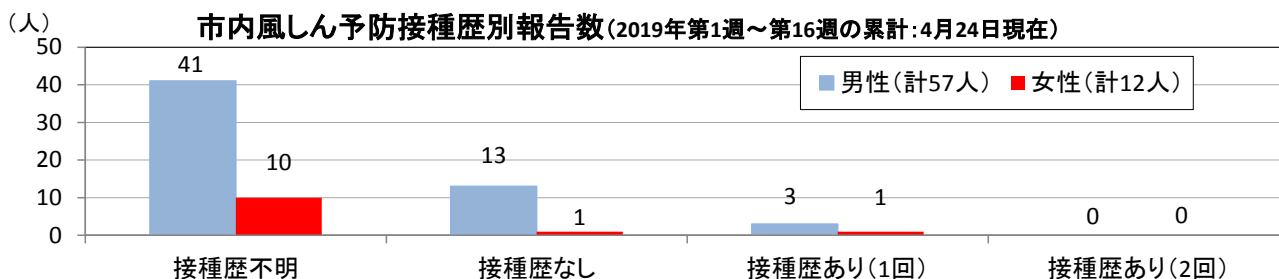
※神奈川県(市外)の第16週の患者数は未確定のためグラフには掲載していません。



2 届出患者の性年齢別状況:市内では、患者のうち男性が196人、女性が44人となっています。30～40歳代の男性の報告数が多くを占めていますが、50～60歳代の報告もあります。



3 予防接種の接種状況:2019年第1週以降、市内の感染者で予防接種歴が確認されたのは男性3人、女性1人で、他はすべて接種歴なしか、不明でした。風しんの予防には予防接種が有効です。大人の方は、自身の母子手帳などで接種歴を確認しましょう。



4 風しんの予防接種等について

○定期予防接種(風しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。)*³

現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MR ワクチン)を2回接種します。

【標準的な接種期間】

- ・1期:1歳以上2歳未満
- ・2期:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

*³ [麻しん風しん予防接種について\(横浜市保健所\)](#)

○横浜市風しん対策事業(再掲)

横浜市では、19歳以上の横浜市民で、「妊娠を希望されている女性(注:妊娠中は接種できません)」、「妊娠を希望されている女性のパートナー」、「妊婦のパートナー」を対象に、「風しん予防接種」と「抗体検査」を実施しています。事業の詳細および協力医療機関はホームページ*⁴をご確認ください。

*⁴ [横浜市風しん対策事業\(横浜市保健所\)](#)